

# 放送作家情報

2003/10/8 Vol.

20

発行／社団法人 日本放送作家協会

編集／広報・出版委員会

〒 106-0032 東京都港区六本木 6-2-5 ハラビル

☎ 03-3401-5996 FAX 03-3408-7411 E-mail to: [info@hosakkyo.jp](mailto:info@hosakkyo.jp)

3期 **3**号

## 新規企画事業

### 放送協のプロジェクトXとなるか！？

常務理事 南川泰三

## 動き出した 「日本脚本ライブラリー」

「過去は始まりである」これはワシントンの米国立公文書館の入り口に刻まれているシェークスピアの言葉です。私たちもまた、過去の作品を未来の糧にしてもらいたいという思いから「日本脚本ライブラリー」の必要性を訴えます。～脚本家 市川森一～

これはこのほど日本放送作家協会と将来、日本脚本ライブラリーの誘致を希望している足立区が共同で作成した「日本脚本ライブラリー設立趣意書」の冒頭の文章です。

そもその発端は今年の3月25日のことでした。当協会理事長、市川森一さんと評論家、田原総一郎さん、立教大学の音好宏さんが、国会総務委員会の参考人として呼ばれたのです。参考人と言っても、お三方にやましいことがあったわけではありません。テレビ放送が始まって50年、国会議員が今、テレビ番組の置かれている状況を知りたいという狙いで、上記のお三方が呼ばれたのです。私は市川さんのお供として同席致しました。総務委員会には自民党から共産党まですべての党が顔を揃えていました。その席で市川さんは、

「テレビ放送が始まってから50年、その間、テレビは数え切れない番組を送り出し、数々の名作、人気番組、話題作を産み出して来た。日本人一人一人の胸の中に必ずいくつかの忘れられない番組、心に残る番組がある。しかし残念なことにその時々の脚本や台本はほとんどが散逸し、残っていても極一部が局や図書館に保存されているのが現状である。多くの名作を産み出した脚本家のシナリオも、一部で保存されている作品以外は、消失する危機に瀕している。脚本や台本は稀少な庶民史でもあり、放送文化にとっても重要な財産。テレビ放送50年を迎えた今、この膨大な数にのぼる脚本や台本を管理、保存し、資料として体系化する脚本ライブラリーが必要である」というような発言をされたのです。

私も次世代の人たちに過去、テレビやラジオが何を放送してきたか？どんな番組が、どんなドラマが、どんなドキュメンタリーがあったのかを脚本を通じて伝えたいと思っていました。

市川発言は思わぬ超党派的な賛意を得られました。その結果、日本脚本ライブラリー構想が急激に動き始めたのです。総務会終了後、自民党の荒井広幸議員が協力を申し出、その後、保守党の金子善治郎議員、自民党の八代英太議員、鴨下一郎議員などが全面協力を約束、8月には日本脚本ライブラリー設立のための「脚本家支援議連」の発足への機運が高まりました。

こうした国レベルの動きに呼応して、東京都足立区が「日本脚本ライブラリー」の誘致に名乗りを上げて来ました。人口64万人をかかえる足立区は東京23区の一つでありながら、これまで大学・劇場・ホテル・映画館もない文化の過疎地的存在に甘んじて来ました。その足立区が来年、「シアター1010」という劇場をオープンさせるのを機に、日本脚本ライブラリーをも取り込み、文化的な町おこしに取り組もうとしているのです。「文化事業は財政の圧迫を招く」とされたのは、一昔前の話で、今は文化事業は経済の活性化に繋がると考えているようです。

今、私たち日本放送作家協会は足立区と協議を重ねながら、次のような合意に達しています。

- ①足立区はナショナルセンターとしての日本脚本ライブラリーを強く望んでおり、足立区立脚本図書館を創るつもりはない。そのため国の動きを見ながら、積極的に日本脚本ライブラリーの設立を支援していく。
- ②日本脚本ライブラリーの主体は日本放送作家協会だけではなく、脚本家が所属する様々な団体の協力を得て、脚本家の総意に基づくものにしていく。
- ③来年（2004年）4月より、足立区は区内、学びピアビルの7Fの一部を、日本放送作家協会に無償提供し日本脚本ライブラリー設立の拠点となる準備室を発足させる。又、日本脚本ライブラリーを始動させる環境が整った時点で、同ビル内にある中央図書館の書庫スペースの一部を無償提供する用意がある。

こうした足立区の積極的なバックアップの元に、現在、日本放送作家協会内で組織した「日本脚本ライブラリープロジェクトチーム」はNHKの海老沢会長に協力を要請すると同時に、足立区と当協会が共同で作成した「日本脚本ライブラリー設立趣意書」を元に、具体的な予算づくりや、脚本の収集方法、保存、閲覧のシステム等の検討に入っております。

まだまだ動き出したばかりの日本脚本ライブラリー設立計画、今後、どのように展開していくかは未知数です。国際的なシンポジウムも可能な日本脚本ライブラリー會館建設へと発展して行くのか、既成の施設を利用したライブラリーに留まるのかは、脚本を仕事とする皆さんの御支持と熱意にかかっています。

このプロジェクトが私たち日本放送作家協会だけのものではなく、脚本を仕事とする者すべての総意として、設立への機運が高まらなければ、いずれのライブラリーも不可能です。

そのため、私たちは機会があるごとに日本脚本ライブラリーの必要を訴えていきます。早急に事を運ぶつもりはありませんが、こうしている今も多くの脚本が散逸していることを思うと、のんびりと構えているわけにもまいりません。

8月。国会議員による「脚本家支援議連」の立ち上げは、会期末にひっかかり延期となりました。この臨時国会での成立する可能性もありますが、今の政局の動きを見ていると総選挙後まで伸びるかも知れません。こうした大きな流れを睨みつつ、私たちは肅々と熱意を燃やしながら一歩、一歩、実現へのステップを踏んで行きたいと考えています。

どういう組織形態で、どのように収集し、どう管理、保管をしていくのか？既に一部なりとも脚本収集をしている組織とどのように連携し、協力してもらうのか？問題は山積みです。これから関係各所をお訪ねして、御理解と御協力を仰いで行かなければなりません。

「色男、金と力はなかりけり」我が日本放送作家協会は色男でもないのに金も力もありません。あるのは「日本脚本ライブラリーを創りたい！」と願う熱い思いだけです。

この御報告を読まれた会員諸氏は「多分、無理じゃないの」と覚めた目で御覧になるか、「出来れば素晴らしいなあ」と思われるのでしょうか？書いている私も半信半疑です。

ただ言えることは国会議員や足立区の支援など、これまでにない具体的な環境が生まれつつあること、そして、このスペースではご紹介仕切れない数多くの経緯と、様々な人たちの貴重なアドバイス、私たちのプロジェクトに外部から参加してくれた馬場絵馬さんが作成した可能な限り具体的な予算と経費の概算書が、ともすれば後ろ向きになる私たちを支えてくれています。どうぞ御支援を！

日本放送作家協会常務理事「日本脚本ライブラリープロジェクト」実行委員 南川泰三

## 日本脚本ライブラリープロジェクトチームの一員として

広報・出版委員長 奥山侑伸

### たかが台本、されど台本、やっぱり台本

テレビの放送が始まって50年、記念番組をあちこちの局で、特にNHKが力を入れてやっていたが、50年間に放送された膨大な量の番組のVTRがすべて残っている訳では勿論ない。ましてやテレビ放送が始まってからしばらくは、VTRはなかったから残ってはいない。番組をVTRで流すようになった頃も、テープ代が高いから、放送が終わったら消して使い廻しだった。私はバラエティ専門だが、日本テレビの『シャボン玉ホリデー』は生放送とVTRの放送を交互にオン・エアーしていた時期もあり、途中からVTRで撮る方が多くなったと思う。だから生放送は消え、VTRでさえ、現在はほとんど残っていない。『ゲバゲバ90分』が始まった頃、やっと家庭用VTR機が発売された。オープンリールのVTR機で高価だったが、テープも高かった。大橋巨泉さんが買ったが、確か60分しか録る事が出来ず、録画しても自分の出演しているコーナーだけ録っていた。『ゲバゲバ90分』もきちんと一本90分残っているテープはないようである。…とまあ、数々の名番組、傑作番組ですら、この状態。その台本、その脚本はと言えば語るも涙の惨状で、個人が所有しているのがせいぜい。各テレビ局には、まず残っていない。個人の所有台本、脚本も何年かたまると捨て、引越しの毎に捨て、の人達が大半。

放送50年目にして、今やっと台本・脚本を保存しようと動き出した。詳しくは南川さんの、「日本脚本ライブラリー」で述べているが、なにはともあれ、今お持ちの台本・脚本を持って頂きたいのです。多分、きっと必ず、台本脚本のライブラリーが完成する筈です。南川さんをリーダーに、足立区へは何度かお邪魔して、ライブラリー設立の会議をやっております。

スタジオで放送が終わったら、床に落ちていた台本、ゴミ箱へ直行する脚本。自分の一冊だけ持ち帰り、それすらもやがて自分で捨てていた、台本・脚本がライブラリーに保管される！小さな喜び、大きな企画です。やっぱり、台本や脚本って文化です。ご支援下さい。

## おしらせ

企画事業委員長 高桐唯詩

### 企画事業委員会レポート

会員の皆さんの豊富な知識と経験を、放送以外の場所で発揮していただくため、講演や出前講座を推進しています。今年3月に足立区生涯学習センターで「放送とシナリオの世界」という講座を成功させましたが、来年もパート2の実施が決定しました。また2001年12月から始まった長崎県諫早市立図書館における「図書館シナリオ講座」も益々成熟。まずオーディオドラマ入門から始まり、昨年夏、市民の手でオーディオドラマを完成させました。今年は遂に市民が撮る「ビデオドキュメンタリー」に挑戦します。こうした「講師派遣事業」をさらに拡大するために、今年はじめには全国の教育委員会や生涯学習施設にEメールを送りましたが、さらに現在カラー印刷のパンフレットを作成中です。「自分が居住する自治体に売り込んでみたい」という方がいらっしゃったら、パンフレットをお送りしますので、お申し出下さい。

この事業のメリットは、放送局相手の孤独な作業ではなく、市民の生の声に触れながら「ものを書くことの喜びや意味」を再確認できる作家自身の心のリハビリであり、それと同時に「内容の濃い充実した講座に感動した」と言う受講者の声にあるように「地域の人に喜ばれる放送作家のトーク・ライブ」なのです。今後も、積極的に企画を練り、講師派遣の場を作ってまいります。会員の皆様のご協力をお願いします。

## 会員向けINFORMATION

### シナリオエージェント 「ドラマティックス」

あなたのドラマ脚本を応援します 一生懸命売り込みます！

ジャンル	テレビドラマ・映画のシナリオ、舞台の脚本
対象者	日本放送作家協会・日本脚本家連盟所属会員、及び会員の推薦者に限ります
原稿	未発表のオリジナル脚本 氏名・連絡先住所・電話番号・簡単なあらすじをつけてください 原稿はお預かりしてドラマティックス委員会にて審査後、連絡先にお知らせします。
原稿送付先	〒106-0047 東京都港区南麻布5-15-20-502 「ドラマティックス」シナリオ係

☞ 詳細については以下までお問い合わせください

ドラマティックス

〒106-0047 東京都港区南麻布5-15-20-502

TEL・FAX 03-5447-2685 (平日10時より17時まで)

E-mail [dramatics@smile.ocn.ne.jp](mailto:dramatics@smile.ocn.ne.jp)

地球上どこにいてもネットでつなげる放作協のホームページ  
みなさんのコラム・エッセイ、問題提起、告知なんでも原稿大募集！  
詳細はHPをご覧ください。

<http://www.hosakkyo.jp>

ホームページは放作協の事務局でもご覧になれます。お気軽にお立ち寄りください。  
ホームページに関するお問い合わせは事務局までお電話、またはメールで承ります。

放作協のメールアドレスは、[info@hosakkyo.jp](mailto:info@hosakkyo.jp) に統一されました。

\* 併用していた [LEQ05444@nifty.com](mailto:LEQ05444@nifty.com) は閉鎖されました。

#### 【今号担当の編集後記】

□忙しいと引きこもり状態になってしまうことがしばしば。同業の人たちの考えを、なんでもかんでも聞きたいと思っています。(井上)

□情報誌とHPを有機的に結んでいきたいと思っています。会員のみなさまのご意見、寄稿、提案などなんでも首を長くしてお待ちしています。(さらだ)

企画・編集／広報・出版委員会 (五十音順)

井上美保子、奥山悠伸 (長)、さらだたまこ (副)、花輪如一、福岡秀広、藤森いずみ (副)